

日本共産党区議会議員
Japanese Communist Party

安藤たい作

区政報告 ニュース 第47号

コスト論で地域から学校なくすな

一般質問報告(上)「『小規模校は問題』とレッテル貼り、非公開で進める学校統廃合はやめよ」



年明け早々、ケーブルTVで各党の新年のあいさつが放映されます。開かれた議会へ一歩前進ですが、次は是非討論形式の番組など期待します。

先日12月7日、第四回定例議会が終わりました。私(安藤)は3つのテーマで一般質問を行いました。何回かにわたって報告します。

①「小規模校は問題」とレッテル貼り、非公開で進める学校統廃合はやめよ

これまでの方針切り替え、統廃合を検討

濱野区長は昨年10月の就任直後から「子どもの数と学校の数にアンバランスがある」と述べ、年明けには小規模校を統廃合する方針を打ち出しました。現在、教育長により「学事制度審議会」が設置され、非公開で統廃合を検討する審議が行われています。審議会への設置には教育委員会からも異論が噴出。これまで学校選択制導入にあたり、区は「小規模校は一人になっても支援する。統廃合はしない」と説明してきた経緯があるからです。

レッテル貼りしてまで統廃合を推進!?

小規模校を「児童生徒の適切な競い合いや切磋琢磨、多様な個性との触れあいという環境が乏しく、成長への影響が懸念される」などとレッテル貼りし、統廃合の口実にしているのも問題です。私は質問の中で「先生に近づきやすいので、相談しやすく、授業も楽しい。体育館に集まると大体全員が分かる。先輩とも仲がいい」「生徒にとって発言の機会が増え、教師にとってはよりきめ細

やかな指導が行えます。生徒達は着実に力をつけています」との小規模校の実践を紹介。区は小規模校の教育意義を否定できませんでした。

狙いは国も求める義務教育のコスト削減

区の狙いはコスト削減です。6月2日の教育委員会には区長部局から企画部長が出席。「小規模学校の統合・再編によりコスト削減が求められている」と述べ、国から出されている統廃合方針を説明。教育次長も「学校の設置者の区長が言っているなら」などと応じました。実際にも、来年度統合が決まっている小規模校の往原二中・平塚中では、統合により教員定数が30人から19人へと大幅削減になります(定数配当基準による)。

学校統廃合でなく、今こそ少人数教育へ

教育長は「子ども達によりよい教育環境を提供するために新たな一歩を踏み出したもの」と開き直りました。

現在、いじめ・不登校・学習意欲の減退等、解決が待たれる課題は少なくありません。現在の学校数が整備された昭和50年当時と比べると、子どもの数は減っているのは事実ですが、「よりよい教育環境」を言うなら、学校の数を減らすのではなく今こそ子ども教師も主役になれる30人学級を実施すべきです。



漫画：安藤たい作

安藤たい作プロフィール '74年宮城県仙台市生まれ。国立宮城教育大卒。'98年漫画家を志し上京。'02年青年誌奨励賞受賞。'06年の区議補選で初当選。

安藤たい作ニュースは、「品川区議会における政務調査費の交付に関する規定」で定める用途基準「広報・活動費」に基づき、政務調査費によって発行されています。ご意見・ご感想をお寄せください。